

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

14.01.2005

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2004年 7月 6日

出願番号
Application Number: 特願 2004-199899

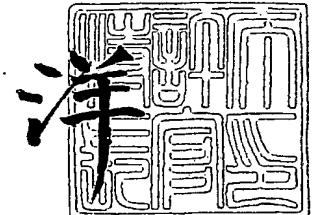
[ST. 10/C]: [JP 2004-199899]

出願人
Applicant(s): エスケー化研株式会社

2005年 2月 18日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川



BEST AVAILABLE COPY

【書類名】 特許願
【整理番号】 04070603
【あて先】 特許庁長官 小川 洋 殿
【国際特許分類】 C09D 5/00
【発明者】
【住所又は居所】 大阪府茨木市中穂積3丁目5番25号 エスケー化研株式会社内
【氏名】 尾上誠一
【発明者】
【住所又は居所】 大阪府茨木市中穂積3丁目5番25号 エスケー化研株式会社内
【氏名】 上村茂人
【特許出願人】
【識別番号】 000180287
【氏名又は名称】 エスケー化研株式会社
【代表者】 藤井 實
【電話番号】 072-643-7100
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 051828
【納付金額】 16,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 要約書 1

【書類名】特許請求の範囲

【請求項 1】

pHが4.0以上10.0以下である合成樹脂エマルション（A）、
粒子径が1nm以上200nm以下であり、pHが5.0以上8.5未満である中性シリカゾル（B）、
着色顔料（C）、体质顔料（D）、及び粒子径が0.05mm以上5mm以下の骨材（E）
を必須成分とし、
前記合成樹脂エマルション（A）の固形分100重量部に対し、前記中性シリカゾル（B）
を固形分換算にて0.1～50重量部、前記着色顔料（C）を1～300重量部、前記
体质顔料（D）を10～1000重量部、前記骨材（E）を10～2000重量部含むこ
とを特徴とする水性塗材。

【請求項 2】

前記中性シリカゾルが、疎水化処理を施したものであることを特徴とする請求項1に記
載の水性塗材。

【書類名】明細書

【発明の名称】水性塗材

【技術分野】

【0001】

本発明は、建築物や土木構造物等の表面に砂壁状、ゆず肌状、繊維壁状、スタッコ状、さざ波状等の表面模様を付与することができる水性塗材に関する。

【背景技術】

【0002】

建築物や土木構築物等に用いる塗材として、その表面に砂壁状、ゆず肌状、繊維壁状、スタッコ状、さざ波状等の各種テクスチャーを付与する材料が知られており、その一例としてJIS A 6909には、薄付け仕上塗材、厚付け仕上塗材等が挙げられている。このような塗材は、合成樹脂エマルションを結合剤とし、これに体质顔料、骨材、その他混和剤（分散剤、増粘剤、消泡剤、防腐剤等）を均一に混合して得ることができ、さらに着色顔料を配合することによって所望の色調に調製することができる。

上記塗材の塗装においては、塗装器具の種類とその使用方法を適宜選定することで、種々の表面模様を形成することができる。ただし、表面模様の凹凸形状等によっては、塗膜中に汚染物質が入り込みやすく、所期の美観性が損なわれる場合がある。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

特許文献1（特開2003-73612号公報）には、合成樹脂エマルションを結合剤とし、着色顔料、体质顔料、骨材等を含有する水性塗材において、その耐汚染性を向上させる目的で、低汚染化剤としてオルガノシリケートを混合することが記載されている。

しかしながら、特許文献1に記載の塗材において使用されるオルガノシリケートは、水との反応性を有するアルコキシシリル基を有している。そのため、水性塗材にオルガノシリケートを添加すると、その加水分解縮合反応を制御することができずに、短時間で急激に塗料粘度が上昇し、さらには塗材全体がゲル化してしまい、塗装作業に支障をきたすおそれがある。また、水性塗材とオルガノシリケートとの相溶性が悪く、混合後に凝集物が生じてしまい、塗膜の鮮映性が損なわれるという問題もある。さらに、たとえ混合後直ちに塗装を行い、塗膜を形成した場合においても、十分な耐汚染性を得ることができないという欠点がある。特に、塗膜形成初期段階においては、オルガノシリケートに起因する粘着性によって、却って汚染物質が付着しやすくなるという問題が発生してしまう。

【0004】

【特許文献1】特開2003-73612号公報

【0005】

本発明は、このような問題点に鑑みなされたものであり、低汚染化剤を混合した場合の安定性に優れるとともに、耐汚染性に優れた塗膜が形成可能な水性塗材を得ることを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明者は、これらの課題を解決するために鋭意検討を重ねた結果、特定の合成樹脂エマルション、中性シリカゾル、体质顔料、及び骨材を必須成分とする水性塗材に想到し、本発明を完成するに至った。

【0007】

即ち、本発明は以下の水性塗材に関するものである。

1. pHが4.0以上10.0以下である合成樹脂エマルション（A）、
粒子径が1nm以上200nm以下であり、pHが5.0以上8.5未満である中性シリカゾル（B）、
着色顔料（C）、体质顔料（D）、及び粒子径が0.05mm以上5mm以下の骨材（E）
を必須成分とし、

前記合成樹脂エマルション（A）の固形分100重量部に対し、前記中性シリカゾル（B）を固形分換算にて0.1～50重量部、前記着色顔料（C）を1～300重量部、前記体质顔料（D）を10～1000重量部、前記骨材（E）を10～2000重量部含むことを特徴とする水性塗材。

2. 前記中性シリカゾルが、疎水化処理を施したものであることを特徴とする1.に記載の水性塗材。

【発明の効果】

【0008】

上記構成を有する本発明の水性塗材では、塗料粘度の上昇が抑制されており、塗装作業における取扱いが容易であり、塗装作業の効率を高めることができる。

さらに、本発明の水性塗材により形成された塗膜は、優れた耐汚染性を發揮するものである。特に、塗膜形成初期段階においても汚染物質が付着しにくいという特徴を有する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0009】

以下、本発明を実施するための最良の形態について説明する。

【0010】

本発明を構成する（A）成分は、pHが4.0以上10.0以下の合成樹脂エマルション（以下「（A）成分」という）である。この（A）成分は結合剤として作用するものである。

【0011】

（A）成分のpHは通常4.0以上10.0以下、好ましくは5.0以上9.5以下、より好ましくは6.0以上9.0以下、さらに好ましくは7.0以上8.5以下である。このようなpHの（A）成分を使用することにより、後述の（B）成分を混合した際に良好な安定性を確保することができる。pHが上記範囲外である場合は、（A）成分と（B）成分とを混合した際に、凝集物が発生したり、短時間で塗料粘度が上昇したりする。極端な場合には、塗材がゲル化してしまうおそれもある。

【0012】

（A）成分としては、pHが上記範囲内であれば、各種合成樹脂エマルションを使用することができる。具体的には、例えば、アクリル樹脂系エマルション、アクリルシリコン樹脂系エマルション、フッ素樹脂系エマルション、ウレタン樹脂系エマルション等が挙げられる。

【0013】

【アクリル樹脂系エマルション】

アクリル樹脂系エマルションとしては、アクリル系单量体、およびアクリル系单量体と共に重合可能な他の单量体とをラジカル共重合により得られるものが使用できる。

【0014】

アクリル系单量体は、特に限定されないが、例えば、メチル（メタ）アクリレート（メチルアクリレートまたはメチルメタアクリレートのいずれかであることを示す。以下において同じ。）、エチル（メタ）アクリレート、n-ブチル（メタ）アクリレート、i-ブチル（メタ）アクリレート、2-エチルヘキシル（メタ）アクリレート、シクロヘキシル（メタ）アクリレートなどのアルキル基含有（メタ）アクリル系单量体；2-ヒドロキシエチル（メタ）アクリレートなどの水酸基含有（メタ）アクリル系单量体；（メタ）アクリル酸などのエチレン性不飽和カルボン酸；ジメチルアミノエチル（メタ）アクリレート、ジメチルアミノプロピル（メタ）アクリレートなどのアミノ基含有（メタ）アクリル系单量体；（メタ）アクリルアミド、エチル（メタ）アクリルアミドなどのアミド含有（メタ）アクリル系单量体；アクリロニトリルなどのニトリル基含有（メタ）アクリル系单量体；グリシジル（メタ）アクリレートなどのエポキシ基含有（メタ）アクリル系单量体等を例示できる。

【0015】

アクリル系单量体と共に重合可能な他の单量体としては、スチレン、メチルスチレン、ク

ロロスチレン、ビニルトルエンなどの芳香族炭化水素系ビニル単量体；マレイン酸、イタコン酸、クロトン酸、フマル酸、シトラコン酸などの α 、 β -エチレン性不飽和カルボン酸；スチレンスルホン酸、ビニルスルホン酸などのスルホン酸含有ビニル単量体；無水マレイン酸、無水イタコン酸などの酸無水物；塩化ビニル、塩化ビニリデン、クロロブレンなどの塩素含有単量体；ヒドロキシエチルビニルエーテル、ヒドロキシプロピルビニルエーテルなどの水酸基含有アルキルビニルエーテル；エチレングリコールモノアリルエーテル、プロピレングリコールモノアリルエーテルジエチレングリコールモノアリルエーテルなどのアルキレングリコールモノアリルエーテル；エチレン、プロピレン、イソブチレンなどの α -オレフィン；酢酸ビニル、プロピオン酸ビニル、酪酸ビニル、ピバリン酸ビニルなどのビニルエステル；メチルビニルエーテル、エチルビニルエーテル、ブチルビニルエーテル、シクロヘキシリビニルエーテルなどのビニルエーテル；エチルアリルエーテル、ブチルアリルエーテルなどのアリルエーテル等を例示できる。

【0016】

合成樹脂エマルションとして、アクリル樹脂系エマルションを用いた場合は、耐久性、コスト面、樹脂設計の自由度の高さなどが優れている点で有利である。

【0017】

〔アクリルシリコン樹脂系エマルション〕

アクリルシリコン樹脂系エマルションとしては、珪素含有アクリル系単量体、および珪素含有アクリル系単量体と共重合可能な他の単量体とをラジカル共重合により得られるものが使用できる。

【0018】

珪素含有アクリル系単量体としては、特に限定されないが、たとえば、 γ -（メタ）アクリロキシプロピルトリメトキシシラン、 γ -（メタ）アクリロキシプロピルトリエトキシシラン、 γ -（メタ）アクリロキシプロピルメチルジメトキシシラン、 γ -（メタ）アクリロキシプロピルメチルジエトキシシランなどの加水分解性シリル基含有ビニル系単量体等を例示できる。

【0019】

珪素含有アクリル系単量体と共重合可能な他の単量体としては、たとえば、前述のアクリル樹脂系エマルションで使用される単量体等を、特に限定されず使用できる。

【0020】

合成樹脂エマルションとして、アクリルシリコン樹脂系エマルションを用いた場合は、耐候性、耐黄変性、耐久性、耐薬品性、耐汚染性などが優れている点で有利である。

【0021】

〔フッ素樹脂系エマルション〕

フッ素樹脂系エマルションとしては、フッ素含有単量体、およびフッ素含有単量体と共重合可能な他の単量体とをラジカル共重合により得られるものが使用できる。

【0022】

フッ素含有単量体としては、たとえば、フッ化ビニリデン、トリフルオロエチレン、テトラフルオロエチレン、ペンタフルオロエチレン、ヘキサフルオロプロピレンなどのフルオロオレフィン；トリフルオロエチル（メタ）アクリレート、ペンタフルオロプロピル（メタ）アクリレート、パーカルオロシクロヘキシリ（メタ）アクリレートなどのフッ素含有（メタ）アクリレート等が例示される。

【0023】

フッ素含有単量体と共重合可能な他の単量体としては、たとえば、前述のアクリル樹脂系エマルションで使用される単量体等を、特に限定されず使用できる。

【0024】

合成樹脂エマルションとして、フッ素樹脂系エマルションを用いた場合は、耐候性、耐黄変性、耐久性、耐薬品性、耐汚染性などが優れている点で有利である。

【0025】

〔ウレタン樹脂系エマルション〕

ウレタン樹脂系エマルションとは、塗膜形成後の塗膜中にウレタン結合を持つようになるエマルションを総称する。即ち、塗膜形成前からウレタン結合を有するものでもよいし、塗膜形成後の反応によりウレタン架橋を形成するものでもよい。エマルションの形態としては、1液型でもよいし、2液型であってもよい。

1液型としては、ウレタン結合を有する重合性单量体を他の共重合可能な单量体と共重合する方法、ウレタン結合を有する水性樹脂の存在下に重合性不飽和单量体を重合する方法、反応基を有する水性ウレタン樹脂と、該反応基と反応することのできる基を含むエマルションとを混合する方法等が挙げられる。

2液型としては、水分散性イソシアネートと水酸基含有エマルションとの組み合わせ等が挙げられる。

【0026】

合成樹脂エマルションとして、ウレタン樹脂系エマルションを用いた場合は、耐久性、耐溶剤性、耐薬品性、耐汚染性などが優れている点で有利である。

【0027】

[その他の架橋反応型エマルション]

合成樹脂エマルションの中で、前記の水酸基とイソシアネート化合物による架橋反応以外に、カルボニル基とヒドラジド基、カルボン酸と金属イオン、エポキシ基とアミン、エポキシ基とカルボキシル基、カルボン酸とアジリジン、カルボン酸とカルボジイミド、カルボン酸とオキサゾリン、アセトアセテートとケチミンなどを利用した架橋反応を形成するエマルションを使用することも可能である。架橋反応型エマルションは、1液タイプであっても、2成分以上の多成分タイプであってもよい。

【0028】

合成樹脂エマルションとして、架橋反応型エマルションを用いた場合は、耐久性、耐溶剤性、耐薬品性、耐汚染性などが優れており、有利である。

【0029】

(A) 成分は、上述の条件を満たす限り、公知の方法で製造することができる。例えば、水性媒体中の乳化重合、懸濁重合、分散重合、溶液重合、酸化還元重合等で製造することができ、必要に応じ、多段階重合で製造することもできる。この際に、必要に応じ、乳化剤、開始剤、分散剤、連鎖移動剤、緩衝剤等またはその他の添加剤等を適宜使用することができる。

【0030】

本発明における(B)成分は、粒子径が1～200nmであり、pHが5.0以上8.5未満である中性シリカゾル(以下「(B)成分」という)である。

【0031】

(B)成分を構成する粒子は、シリケートの加水分解縮合によって形成されるものであり、シリカを主成分とするため硬度が高く、かつその粒子表面にシラノール基(Si-OH)を有する化合物である。本発明では、このような(B)成分粒子の硬度と表面官能基の相乗的作用によって、優れた耐汚染性を発揮することができる。その具体的な作用機構は明らかではないが、塗膜形成時に(B)成分が塗膜表面に配向し、塗膜表面の硬度と親水性を高めているものと推測される。

【0032】

(B)成分の粒子径は、1次粒子径として通常1～200nm、好ましくは5～100nm、より好ましくは10～50nm、さらに好ましくは20～40nmである。粒子径が大きすぎる場合は、塗膜の鮮映性が損われる等、形成塗膜の外観に悪影響を及ぼすおそれがある。粒子径が小さすぎる場合は、耐汚染性において十分な効果が得られないおそれがある。(B)成分の平均1次粒子径は、5～100nm、より好ましくは10～50nm、さらに好ましくは20～40nmである。本発明では、平均1次粒子径が異なる2種以上の中性シリカゾル(B)を使用することによって、耐汚染効果を高めることもできる。なお、(B)成分の粒子径は、光散乱法によって測定される値である。

【0033】

(B) 成分のpHは5.0以上8.5未満であることが必要であり、6.0以上8.5未満であることが好ましく、6.5以上8.0以下であることがより好ましく、7.0以上8.0以下であることがさらに好ましい。(B) 成分がこのようなpHに調製されたものであれば、その粒子表面のシラノール基によって、優れた耐汚染効果が発揮される。pHが上記範囲外である場合は、耐汚染性が不十分となり、また耐水性、耐候性等の点においても不利となる。

【0034】

本発明における(B)成分と類似するものとしてコロイダルシリカが挙げられる。通常のコロイダルシリカは、pHが2~4の酸性タイプ、pHが9~11のアルカリ性タイプに大別される。これらコロイダルシリカの粒子表面では、いずれもSi-OHが解離した状態となっている。具体的に、酸性タイプのコロイダルシリカの粒子表面はSi-O⁻・H⁺となっている。アルカリ性タイプのコロイダルシリカは、粒子表面がSi-O⁻・Na⁺であるNa型と、Si-O⁻・NH₄⁺であるNH₄型に分類される。

【0035】

これに対し、本発明における(B)成分は、粒子表面においてSi-OHの大半が解離せずに残存した状態となっているものであり、上記コロイダルシリカとは別異の化合物である。本発明では、この(B)成分の粒子表面特性によって、優れた耐汚染性能が発揮されるものと推測される。

【0036】

(B)成分としては、電気伝導度が3mS/cm以下(好ましくは2mS/cm以下、さらに好ましくは1mS/cm以下)のものが好適である。なお、ここに言う電気伝導度は、「Mode 1 SC82パーソナルSCメータ SC8221-J」(横河電機社製)を用いて測定される値である(測定温度25℃)。

【0037】

このような(B)成分を使用することによって、形成塗膜の耐水性、耐汚染性等をより高めることができる。

【0038】

(B)成分は、シリケート化合物を原料として製造することができる。シリケート化合物としては、例えば、テトラメトキシシラン、テトラエトキシシラン、テトラn-ブロポキシシラン、テトライソプロポキシシラン、テトラn-ブトキシシラン、テトライソブトキシシラン、テトラsec-ブトキシシラン、テトラt-ブトキシシラン、テトラフェノキシシラン等、あるいはこれらの縮合物等が挙げられる。この他、ジメトキシジエトキシシラン、メチルトリメトキシシラン、メチルトリエトキシシラン、エチルトリメトキシシラン、エチルトリエトキシシラン、ジメチルジメトキシシラン、ジエチルジメトキシシラン等のアルコキシシラン化合物を併せて使用することもできる。製造時には触媒等を使用することもできる。また、製造過程あるいは製造後に、触媒等に含まれる金属をイオン交換処理等によって除去することもできる。

【0039】

(B)成分の媒体としては、水及び/または水溶性溶剤が使用できる。水溶性溶剤としては、例えば、アルコール類、グリコール類、グリコールエーテル類等が挙げられる。本発明では、特に媒体が水のみからなることが望ましい。このような(B)成分を使用することにより、塗料の低揮発性有機溶剤(低VOC)化を図ることができる。また、(A)成分と混合した際の凝集物発生を抑制することもできる。

【0040】

(B)成分の固形分は、通常5~50重量%であり、好ましくは10~40重量%、より好ましくは15~30重量%である。(B)成分の固形分がこのような範囲内であれば、(B)成分自体の安定性、さらには(A)成分と(B)成分を混合したときの安定性を確保することができる。固形分が大きすぎる場合は、(B)成分自体が不安定化したり、(A)成分との混合時に塗材が不安定化したりするおそれがある。固形分が小さすぎる場合は、十分な耐汚染効果を得るために、多量の(B)成分を混合しなければならず、塗材

設計上、実用的ではない。

【0041】

本発明における（B）成分としては、疎水化処理を施した中性シリカゾル（以下「（B-1）成分」という）が好適である。このような（B-1）成分を使用することにより、耐汚染性をいっそう高めることができる。

【0042】

疎水化処理は、アルコキシル基、水酸基から選ばれる少なくとも1種の官能基を有する化合物（以下「（p）成分」という）と、前記中性シリカゾルとの複合化によって行うこととが望ましい。

【0043】

（p）成分としては、中性シリカゾルの疎水化効果を有する化合物であれば限定なく使用可能であるが、例えば下記の化合物が例示される。

【0044】

1) アルコキシラン化合物；テトラメトキシシラン、テトラエトキシシラン、テトラn-プロポキシシラン、テトライソプロポキシシラン、テトラニーブトキシシラン、テトライソブトキシシラン、テトラsec-eブトキシシラン、テトラtert-eブトキシシラン、テトラフェノキシシラン、ジメトキシジエトキシシラン、メチルトリメトキシシラン、メチルトリエトキシシラン、メチルトリプロポキシシラン、メチルトリブトキシシラン、エチルトリメトキシシラン、エチルトリエトキシシラン、エチルトリプロポキシシラン、エチルトリブトキシシラン、プロピルトリメトキシシラン、プロピルトリエトキシシラン、プロピルトリブトキシシラン、ブチルトリメトキシシラン、ブチルトリエトキシシラン、ブチルトリプロポキシシラン、ブチルトリブトキシシラン、ジメチルジメトキシシラン、ジメチルジエトキシシラン、ジメチルジプロポキシシラン、ジメチルジブトキシシラン、ジエチルジメチルシラン、ジエチルジエトキシシラン、ジエチルジブトキシシラン、ヘキシルトリメトキシシラン、ヘキシルトリエトキシシラン、ヘキシルトリプロポキシシラン、オクチルトリメトキシシラン、オクチルトリエトキシシラン、オクチルトリプロポキシシラン、デシルトリメトキシシラン、ドデシルトリメトキシシラン、オクタデシルトリメトキシシラン、フェニルトリメトキシシラン、ビニルトリメトキシシラン等。

【0045】

2) アルコール類；メタノール、エタノール、n-プロパノール、イソプロピルアルコール、n-ブチルアルコール、n-アミルアルコール、n-ヘキシルアルコール、2-エチル-1-ヘキサノール、n-ヘプタノール、イソヘプチルアルコール、n-オクタノール、2-オクタノール、n-ノナノール、n-デカノール、n-ウンデシルアルコール、n-ドデシルアルコール、1-3ブタンジオール、1-5ペンタンジオール、ジアセトンアルコール等。

【0046】

3) グリコール類；エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール等。

【0047】

4) グルコールエーテル類；エチレングリコールモノメチルエーテル、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノプロピルエーテル、エチレングリコールイソプロピルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート、トリエチレングリコールモノメチルエーテル、トリエチレングリコールモノエチルエーテル、プロピレングリコールモノメチルエーテル、プロピレングリコールモノエチルエーテル、ジプロピレングリコールモノメチルエーテル等。

【0048】

5) フッ素アルコール類；トリフルオロエタノール、ペンタフルオロプロパノール、2,

2,3,3-テトラフルオロプロパノール、1,1,1,3,3,3-ヘキサフルオロイソプロパノール、ノナフルオロ-*t*-ブチルアルコール、1,1,3,3-テトラフルオロイソプロパノール、1,1-ビス(トリフルオロメチル)エタノール、1,1,1,3,3,4,4,4-オクタフルオロー-2-ブタノール、2,2,3,3,3-ペンタフルオロー-1,1-ビス(トリフルオロメチル)プロパノール、2,2,2-トリフルオロー-1-(トリフルオロメチル)-1-トリルエタノール等。

【0049】

上記に例示された化合物の中でも、(p)成分としては、特にフッ素アルコールが好適である。

【0050】

(p)成分は、中性シリカゾルの固形分100重量部に対し、0.01～50重量部(好ましくは0.02～30重量部、さらに好ましくは0.05～10重量部)の比率で混合することが望ましい。このような比率であれば、十分に耐汚染性を高めることができる。

【0051】

(p)成分を中性シリカゾルに混合する際には、必要に応じ(p)成分を水や水溶性溶剤等で希釈しておいてもよい。(p)成分と中性シリカゾル(B)とを混合して疎水化処理する際には、必要に応じて触媒を使用することもできる。

【0052】

(p)成分によって中性シリカゾルを疎水化処理する場合、(p)成分にシランカップリング剤を混合して得られたものと、中性シリカゾルとの複合化によって疎水化処理を行うこともできる。また、中性シリカゾルをシランカップリング剤で処理した後に(p)成分を混合することによって疎水化処理することもできる。このような場合、シランカップリング剤としては、(p)成分と反応可能な官能基を有するシランカップリング剤が使用できる。例えば(p)成分がフッ素アルコールである場合には、アミノ基含有シランカップリング剤、イソシアネート基含有シランカップリング剤等が使用できる。

【0053】

中性シリカゾル(B)と(p)成分との混合・処理時の温度は、下限が10℃以上であり、好ましくは20℃以上、より好ましくは40℃以上に設定することが望ましく、上限は200℃以下程度、好ましくは120℃以下、より好ましくは100℃以下に設定することが望ましい。このような温度設定によって、(p)成分と中性シリカゾルとの反応性が高まり、耐汚染効果発現の点においても好ましいものとなる。加温時間は特に限定されないが、通常1～24時間程度である。

【0054】

本発明では、ポリオキシアルキレン基含有化合物を複合化した中性シリカゾルを使用することによって、耐汚染性を高めることもできる。ポリオキシアルキレン基含有化合物(以下「(q)成分」という)としては、アルコキシル基、水酸基から選ばれる少なくとも1種の官能基と、ポリオキシアルキレン基とを有する化合物が好適である。

【0055】

このような(q)成分としては、例えば、ポリオキシエチレングリコール、ポリオキシエチレングリコールモノアルキルエーテル、ポリオキシエチレン-プロピレングリコール、ポリオキシエチレン-テトラメチレングリコール、ポリオキシエチレングリコールジグリシジルエーテル、ポリプロピレングリコールジグリシジルエーテル、ポリオキシエチレンジグリコール酸、ポリオキシエチレングリコールビニルエーテル、ポリオキシエチレングリコールアリルエーテル、ポリオキシエチレングリコールジアリルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンアルキルアミン等が挙げられる。(q)成分の平均分子量は、通常150～2000程度であればよい。

【0056】

中性シリカゾルに(q)成分を複合化するには、中性シリカゾルと(q)成分を混合し

、必要に応じ加温すればよい。(q)成分の混合比率は、中性シリカゾルの固形分100重量部に対し、0.01～50重量部(好ましくは0.02～30重量部、さらに好ましくは0.05～10重量部)の比率とすることが望ましい。加温時の温度は、下限を10℃以上(好ましくは20℃以上、より好ましくは40℃以上)、上限を200℃以下(好ましくは120℃以下、より好ましくは100℃以下)に設定すればよい。加温時間は特に限定されないが、通常1～24時間程度である。

【0057】

本発明における(B)成分としては、疎水化処理を施すとともに、上記ポリオキシアルキレン基含有化合物(q)を複合化した中性シリカゾルが特に好適である。このような中性シリカゾルを使用すれば、形成塗膜の耐汚染性をいっそう高めることができる。

【0058】

本発明における(B)成分として、平均1次粒子径が異なる2種以上の中性シリカゾルを使用する場合は、少なくとも1種が疎水化処理を施したものであることが望ましい。さらには、少なくとも1種が、疎水化処理を施すとともに上記(q)成分を複合化したものであることがより望ましい。

【0059】

本発明塗材における(B)成分の混合比率は、(A)成分の固形分100重量部に対し、固形分換算で通常0.1～50重量部、好ましくは0.5～20重量部、より好ましくは1～15重量部である。このような混合比率であれば、本発明の効果を十分に發揮することができる。(B)成分が少なすぎる場合は、十分な耐汚染性を得ることができない。

(B)成分が多すぎる場合は、塗膜にひび割れが生じやすくなる。また、塗膜の鮮映性が低下しやすくなる。

【0060】

本発明における(C)成分は着色顔料(以下「(C)成分」という)である。(C)成分としては、一般的に塗材に配合可能なものを使用することができる。具体的には、例えば、酸化チタン、酸化亜鉛、カーボンブラック、ランプブラック、ボーンブラック、黒鉛、黒色酸化鉄、銅クロムブラック、コバルトブラック、銅マンガン鉄ブラック、べんがら、モリブデートオレンジ、パーマネントレッド、パーマネントカーミン、アントラキノンレッド、ペリレンレッド、キナクリドンレッド、黄色酸化鉄、チタンイエロー、ファーストイエロー、ベンツイミダゾロンイエロー、クロムグリーン、コバルトグリーン、フタロシアニングリーン、群青、紺青、コバルトブルー、フタロシアニンブルー、キナクリドンバイオレット、ジオキサンバイオレット、アルミニウム顔料、パール顔料等が挙げられ、これらの1種または2種以上を使用することができる。

【0061】

本発明では、これら(C)成分の種類及び配合量を適宜調整することにより、所望の色相の塗膜を得ることができる。

(C)成分の混合比率は、(A)成分の固形分100重量部に対し、固形分換算で通常1～300重量部、好ましくは2～200重量部、より好ましくは3～150重量部である。

【0062】

本発明における(D)成分は体質顔料(以下「(D)成分」という)である。本発明塗材において(D)成分は、主に增量剤として作用するものであり、厚膜の塗膜形成に有効にはたらく成分である。(D)成分としては、重質炭酸カルシウム、軽微性炭酸カルシウム、カオリン、クレー、陶土、チャイナクレー、珪藻土、含水微粉珪酸、タルク、バライト粉、硫酸バリウム、沈降性硫酸バリウム、炭酸バリウム、炭酸マグネシウム、シリカ粉、水酸化アルミニウム等が挙げられ、これらの1種または2種以上を使用することができる。

(D)成分の粒子径は、通常50μm未満(好ましくは0.5μm以上50μm未満、より好ましくは1μm以上30μm以下)である。

【0063】

(D) 成分の混合比率は、(A) 成分の固形分100重量部に対し、固形分換算で通常10～1000重量部、好ましくは20～500重量部、より好ましくは30～300重量部である。

【0064】

本発明における(E)成分は、粒子径が0.05～5mmの骨材（以下「(E)成分」という）である。(E)成分としては、自然石、自然石の粉碎物等の天然骨材、及び着色骨材等の人工骨材から選ばれる少なくとも1種以上を好適に使用することができる。具体的には、例えば、大理石、御影石、蛇紋岩、花崗岩、螢石、寒水石、長石、石灰石、珪石、珪砂、碎石、雲母、珪質頁岩、及びこれらの粉碎物、陶磁器粉碎物、セラミック粉碎物、ガラス粉碎物、ガラスピーブ、樹脂粉碎物、樹脂ビーズ、ゴム粒、金属粒等が挙げられる。また、貝殻、珊瑚、木材、炭、活性炭等の粉碎物を使用することもできる。

【0065】

(E)成分は、(A)成分の固形分100重量部に対し、通常10～2000重量部、好ましくは30～1500重量部、より好ましくは50～1000重量部の比率で混合する。(E)成分の混合比率がこのような範囲内であれば、形成塗膜の意匠性、耐汚染性等の点において好適である。

【0066】

本発明の水性塗材には、本発明の効果を著しく損なわない範囲内であれば、通常塗材に使用可能な各種成分を混合することができる。このような成分としては、例えば、纖維、造膜助剤、可塑剤、凍結防止剤、防腐剤、防黴剤、抗菌剤、消泡剤、顔料分散剤、増粘剤、レベリング剤、湿潤剤、pH調整剤、艶消し剤、紫外線吸収剤、酸化防止剤、触媒、架橋剤等が挙げられる。

【0067】

本発明の水性塗材は、主に建築物や土木構造物等の表面仕上げに使用することができる。適用可能な基材としては、例えばコンクリート、モルタル、サイディングボード、押出成形板、プラスチック、合板、金属、ガラス、磁器タイル等が挙げられる。本発明塗材は、このような基材に直接塗装することもできるし、何らかの表面処理（シーラー処理、フィラー処理、サーフェーサ処理、パテ処理等）を施した上に塗装することも可能である。この際、本発明塗材は、最終の仕上面に施されるものであり、本発明塗材の塗装後にトップコート等を塗装する必要はない。

【0068】

本発明水性塗材では、塗装器具の種類とその使用方法を適宜選定することで、種々の表面模様を形成することができる。表面模様としては、例えば砂壁状、ゆず肌状、さざ波状、スタッコ状、凹凸状、月面状、櫛引状、虫喰状等が挙げられる。表面模様の高低差は、概ね0.2～5mmの範囲内で適宜設定すればよい。

【0069】

塗装器具としては、例えばスプレー、ローラー、コテ、刷毛等を採用することができる。これらの塗装器具は複数を組み合せて使用してもよい。また、塗装後の塗膜が未乾燥のうちに、デザインローラー、デザイン刷毛、くし、くしへら、くしごて等によって表面模様を形成させることもできる。

塗装を行う際の塗付量は、通常0.5～10kg/m²程度である。塗付時には水等で希釈することによって、塗材の粘性を適宜調製することもできる。希釈割合は、通常0～10重量%程度である。

本発明水性塗材を塗装した後の乾燥は通常、常温で行えばよいが、必要に応じ適宜加熱することも可能である。

【実施例】

【0070】

以下に実施例を示し、本発明の特徴をより明確にする。

【0071】

<塗材の製造>

表1に示す配合に従い、常法により各原料を均一に混合して塗材を製造した。表1の配合量は重量部にて表示した。なお、塗材の製造においては以下の原料を使用した。

- ・樹脂：アクリル樹脂エマルション（メチルメタクリレート-ステレン-シクロヘキシリメタクリレート（2-エチルヘキシリメタクリレート）-メタクリル酸共重合体、pH 7
- ・4、固体分50重量%、最低造膜温度22°C
- ・着色顔料：酸化チタン分散液（固体分70重量%）
- ・体质顔料：重質炭酸カルシウム（平均粒子径8 μm）
- ・骨材：粒子径0.1～0.3 mmの寒水石
- ・造膜助剤：2, 2, 4-トリメチル-1, 3-ペンタンジオールモノイソブチレート
- ・増粘剤：ポリウレタン系増粘剤
- ・消泡剤：シリコーン系消泡剤
- ・低汚染化剤A：中性シリカゾル（pH 7.6、固体分20重量%、平均1次粒子径27 nm、電気伝導度0.6 mS/cm）
- ・低汚染化剤B：合成例1参照
- ・低汚染化剤C：合成例2参照
- ・低汚染化剤D：合成例3参照
- ・低汚染化剤E：合成例4参照
- ・低汚染化剤F：合成例5参照
- ・低汚染化剤G：中性シリカゾル（pH 7.8、固体分12重量%、平均1次粒子径12 nm、電気伝導度0.3 mS/cm）
- ・低汚染化剤H：塩基性コロイダルシリカ（pH 9.5、固体分20重量%、平均1次粒子径20 nm、電気伝導度1.7 mS/cm）
- ・低汚染化剤I：エチルシリケート縮合物（平均分子量750）
- ・触媒：ジブチルスズジラウレート

【0072】

(合成例1)

還流冷却器と攪拌羽根を備えた反応容器に、低汚染化剤Aを500重量部仕込み、攪拌しながらトリフルオロエタノール0.3重量部を徐々に滴下した。次いで、80°Cまで昇温して24時間攪拌を継続した後、室温まで放冷し、低汚染化剤Bを得た。

【0073】

(合成例2)

還流冷却器と攪拌羽根を備えた反応容器に、低汚染化剤Aを500重量部仕込み、攪拌しながらテトラメトキシシラン1.0重量部を徐々に滴下した。次いで、80°Cまで昇温して24時間攪拌を継続した後、室温まで放冷し、低汚染化剤Cを得た。

【0074】

(合成例3)

還流冷却器と攪拌羽根を備えた反応容器に、低汚染化剤Aを500重量部仕込み、攪拌しながらメチルトリメトキシシラン1.0重量部を徐々に滴下した。次いで、80°Cまで昇温して24時間攪拌を継続した後、室温まで放冷し、低汚染化剤Dを得た。

【0075】

(合成例4)

還流冷却器と攪拌羽根を備えた反応容器に、低汚染化剤Aを500重量部仕込み、攪拌しながらトリフルオロエタノール0.3重量部を徐々に滴下した後、メトキシポリエチレングリコール0.15重量部を徐々に滴下した。次いで、80°Cまで昇温して24時間攪拌を継続した後、室温まで放冷し、低汚染化剤Eを得た。

【0076】

(合成例5)

還流冷却器と攪拌羽根を備えた反応容器に、低汚染化剤Aを500重量部仕込み、攪拌しながら、トリフルオロエタノール0.3重量部とγ-アミノプロピルトリメトキシシラン0.3重量部との混合溶液を徐々に滴下した。次いで、80°Cまで昇温して24時間攪

拌を継続した後、室温まで放冷し、低汚染化剤Fを得た。

【0077】

【表1】

	実施例 1	実施例 2	実施例 3	実施例 4	実施例 5	実施例 6	実施例 7	比較例 1	比較例 2	比較例 3
樹脂	200 (100)									
着色顔料	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
体质顔料	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
骨材	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280
造膜助剤	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
増粘剤	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
消泡剤	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
低汚染化剤A	50 (10)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
低汚染化剤B	-	50 (10)	-	-	-	-	30 (6)	-	-	-
低汚染化剤C	-	-	50 (10)	-	-	-	-	-	-	-
低汚染化剤D	-	-	-	50 (10)	-	-	-	-	-	-
低汚染化剤E	-	-	-	-	50 (10)	-	-	-	-	-
低汚染化剤F	-	-	-	-	-	50 (10)	-	-	-	-
低汚染化剤G	-	-	-	-	-	-	33 (4)	-	-	-
低汚染化剤H	-	-	-	-	-	-	-	-	50 (10)	-
低汚染化剤I	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
触媒	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

表中の数字は重量部。 () 内は固形分重量部

【0078】

<試験方法>

(1) 貯蔵安定性

各塗材を製造した後、直ちに粘度を測定した。次に、塗材を容器に入れて密閉し、50℃霧団気で30日間貯蔵した後、再び粘度を測定した。

以上の操作による粘度変化を調べた。評価基準は以下の通りである。なお、粘度の測定にはB H型粘度計を用い、標準状態（温度23℃・相対湿度50%）で行った。

○：粘度変化10%未満

△：粘度変化10%以上50%未満

×：粘度変化50%以上

【0079】

(2) 水流滴下面積

150×75×0.8mmのアルミニウム板に、SK#1000プライマー（エポキシ樹脂系プライマー；エスケー化研株式会社製）を乾燥膜厚が30μmとなるようにスプレー塗装し、標準状態で8時間乾燥させた。次に、各塗材を乾燥膜厚が1mmとなるようにスプレー塗装し、標準状態で7日間養生することにより試験体を作製した。

以上の方で得られた試験体を、水平面から60度の角度で固定した後、試験体上端から30mmの位置に水流を連続的に滴下し、その際形成される水膜の面積を測定した。な

お、水流の滴下は、試験体上端から約20mm上方に設置された塩化ビニル管（口径3m）により行った。流量は140ml/minとした。

【0080】

(3) 耐汚染性

300×150×3mmのアルミニウム板を、上端から3分の1の位置で、内角度が135度になるように折り曲げたものを試験基材とした。この試験基材の凸面に、SK#1000プライマーを乾燥膜厚が30μmとなるようにスプレー塗装し、標準状態で8時間乾燥させた。次に、各塗材を乾燥膜厚が1mmとなるようにスプレー塗装し、標準状態で7日間乾燥養生した。

以上 の方法で得られた試験体を、面積の広い面を垂直にして大阪府茨木市で南面向きに設置し、3ヶ月間屋外曝露を行った。このとき垂直面における汚染状態を目視観察し、汚れの程度に応じて5段階（優：5>4>3>2>1：劣）で評価した。

【0081】

(試験結果)

試験結果を表2に示す。実施例1～7では、いずれの試験においても良好な結果を得ることができた。

【0082】

【表2】

	実施例 1	実施例 2	実施例 3	実施例 4	実施例 5	実施例 6	実施例 7	比較例 1	比較例 2	比較例 3
貯藏安定性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
水流滴下面積 (cm ²)	30	41	37	39	46	51	43	14	23	22
耐雨筋汚染性	3	4	4	4	5	5	5	1	2	2

【書類名】要約書

【要約】

【課題】低汚染化剤を混合した場合の安定性に優れるとともに、耐汚染性に優れた塗膜が形成可能な水性塗材を提供する。

【解決手段】pHが4.0以上10.0以下である合成樹脂エマルション（A）、粒子径が1nm以上200nm以下であり、pHが5.0以上8.5未満である中性シリカゾル（B）、着色顔料（C）、体质顔料（D）、及び粒子径が0.05mm以上5mm以下の骨材（E）を必須成分とし、前記合成樹脂エマルション（A）の固形分100重量部に対し、前記中性シリカゾル（B）を固形分換算にて0.1～50重量部、前記着色顔料（C）を1～300重量部、前記体质顔料（D）を10～1000重量部、前記骨材（E）を10～2000重量部含む。

【選択図】なし

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2004-199899
受付番号	50401139013
書類名	特許願
担当官	第六担当上席 0095
作成日	平成16年 7月 7日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成16年 7月 6日
-------	-------------

特願 2004-199899

出願人履歴情報

識別番号 [000180287]

1. 変更年月日 1991年 4月25日

[変更理由] 名称変更

住所 大阪府茨木市南清水町4番5号
氏名 エスケー化研株式会社

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP04/019361

International filing date: 24 December 2004 (24.12.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004-199899
Filing date: 06 July 2004 (06.07.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 03 March 2005 (03.03.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record.**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

BLACK BORDERS

IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

FADED TEXT OR DRAWING

BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

SKEWED/SLANTED IMAGES

COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

GRAY SCALE DOCUMENTS

LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.